柱1・スポーツで変わる北海道民

❶ 様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進

第２期計画における【今後の方向性】

- スポーツに係る情報発信や、イベント実施などによる道民のスポーツ参画意識の醸成を図ります。
- 地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの普及啓発や指導者派遣など、地域において日常的にスポーツに親しむ機会の充実を図ります。
- 総合型地域スポーツクラブ北海道ネット（札幌市）などの中間支援組織を核に、地域における普及促進などに努めてまいります。
- パークゴルフなどご当地スポーツの発掘・普及や、本道の地域特性を活かしたウィンタースポーツ、アウトドアスポーツなど地域スポーツを奨励します。
- 多くの住民にスポーツ大会を知ってもらうため後援を行うほか、競技大会等において輝かしい功績を残した方やスポーツの振興に貢献した方を表彰します。

【目標】

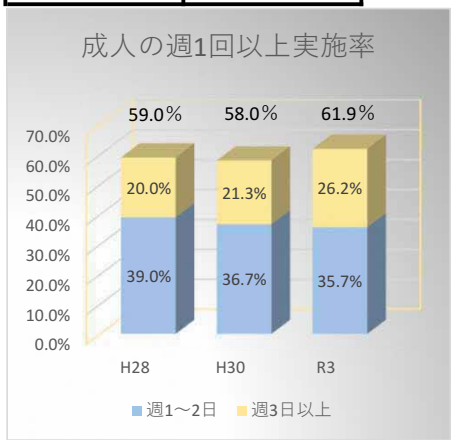
◎ 本道の成人の週１回以上スポーツ実施率（H28（2016）：５９％ → H34（2022）：６５％以上）

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（地域支援事業）	環境生活	総合型地域スポーツクラブ育成のための講習会・派遣事業	1,080 参加　105名	1,057 151名	980 55名	777	未計上
北海道スポーツ表彰	環境生活	優秀な成績を収めた団体・個人への表彰等	305 表彰　35件	305 12件	305 39件	305	未計上
スポーツ行事への後援	環境生活	スポーツ大会等への後援	－ 後援　312件	－ 301件	－ 153件	－	－
スポーツ情報の発信	環境生活	イベント、事業等のＨＰ掲載、道の広報媒体（メルマガ等）で、余暇活動等の啓発	－	－	－	－	－
明るい長寿社会づくり推進事業費	保健福祉	全道高齢者スポーツ等大会の開催等	40,020 参加　134名	36,985 125名	30,679 202人	29,598	未計上
北海道アウトドア活動振興環境整備事業費	経済	アウトドア資格の認定登録等	391 新規登録　33件	389 28件	368 46件	368	未計上

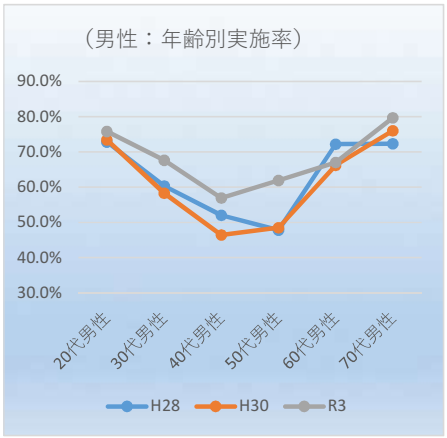
【「目標」の結果について】

目標	R3結果
65%	61.9%

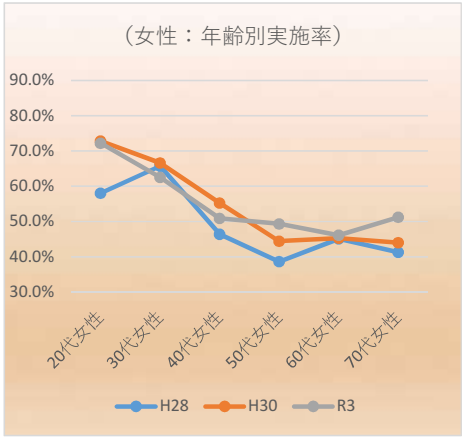


n=1,982

（スポーツに関する実態調査（環境生活部調べ））



n=1,005



n=977

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業において、規模の縮小や中止を余儀なくされた。
- 目標に関しては、Ｒ３年度結果では61.9%と達成はできていないものの、コロナ禍において上昇傾向を示した。
- 運動の内容については、ウォーキングの構成割合が最も多く、Ｈ３０：３３%→Ｒ３：３９%へと6ポイント上昇。
- 従来通りスポーツが実施できなくなった状況の中においても、自身の健康等の維持増進のために、運動・スポーツが実施されているものと認識。
- 今後、環境や状況等の変化に対応し、新たな工夫を取り入れた運動・スポーツの楽しみ方などを取り入れていく視点も重要。

柱１・スポーツで変わる北海道民

❷ 幼少期からのスポーツ機会の充実と子どもの体力向上

第２期計画における【今後の方向性】

- 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するため、体育・保健体育の授業など学校教育活動の充実を図ります。
- 地域における身近なスポーツへの参加のきっかけとなるスポーツ少年団などの活動強化を図ります。
- 体力向上や健康の保持増進等、子どもの成長におけるスポーツの重要性について保護者の理解を促進し、家庭における生活習慣等の改善を図ります。
- プロスポーツ選手やオリンピアン、パラリンピアンを講師としたスポーツ教室を開催しアスリートとの交流を促進します。
- 北海道の地域性を活かしたウィンタースポーツをはじめ、学校におけるスポーツに取り組む機会や触れる機会の充実、幼児期からスポーツを親しむ機会の充実を図ります。
- 雪遊び、スキー・スケートなど冬季における屋外での運動時間の確保に向けた取組を促進します。
- 運動を含めた望ましい生活習慣を定着させるため、ＰＴＡ等と連携した家庭への普及啓発を促進します。
- 気軽にスポーツに取り組めるよう、学校や家庭、地域が連携して親子でスポーツに親しむ機会の充実に努めます。
- 子どもの体力向上に取り組む市町村の先進事例などについて、ホームページ等で紹介します。

【目標】

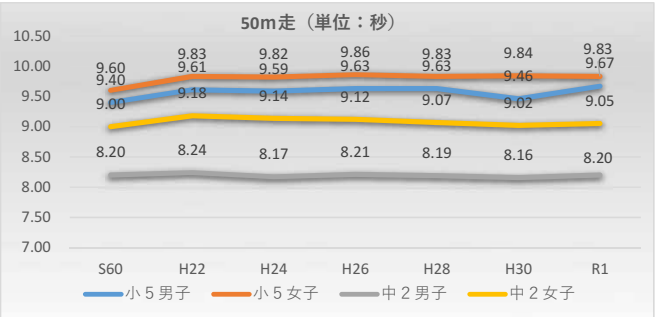
◎ **本道の子どもの体力水準を、子どもの体力がピークであった昭和６０（１９８５）年頃の水準までに引き上げることを目指す。**

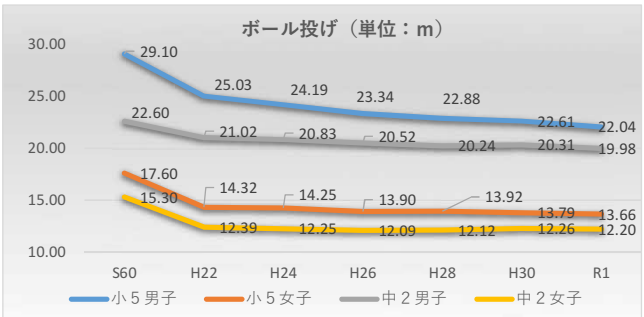
【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（チャレンジ教室、ペアレンツスクールの開催）	環境生活	本道ゆかりのスポーツ選手を講師に招き、体験型教室を開催等	2,622 参加　752名	2,658 952名	3,319 233名	2,843	未計上
スポーツ団体活動費補助金	環境生活	国体運営、競技団体育成、指導員養成、少年団育成事業に対する補助	4,389	4,010	4,134	4,134	未計上
学校スポーツ振興事業費	教育	中体連、高体連等の全道大会開催費の補助及び教員引率旅費の措置	86,850	77,872	67,220	61,653	未計上
学校体育推進事業費	教育	中学校の武道必修化を踏まえ、外部指導者等を派遣	10,759 派遣　117人	9,026 118人	5,108 52人	4,890	未計上
学校・家庭・地域の連携協力推進事業費	教育	放課後や週末等に子ども達の安全・安心な活動拠点を設置	73,784	64,876	58,362	52,526	未計上
体力向上支援事業費	教育	小学校における体育を専門とする教員の配置や巡回指導	10,114	8,446	6,583	6,527	未計上
学校体育授業改善講習会費	教育	学校における体育の実技内容について実践的な研修を実施	4,530	4,543	4,313	3,887	未計上
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業費	教育	オリパラ推進拠点学校の設置などオリパラ教育を推進	5,696 8校	6,810 15校	5,897 7校	5,354	未計上
学校部活動の総合的な支援体制構築事業費	教育	学校部活動に地域の外部人材などの部活動指導員を配置等	39,868 指導員　191人	43,747 228人	44,201 249人	44,109	未計上
部活動改革調査研究事業費	教育	休日の部活動の段階的な地域移行や合同部活動の実践研究を実施	－	－	－	6,350	未計上

【「目標」の結果について】

	S60				R1結果				
	小5男子	小５女子	中２男子	中２女子	小5男子	小５女子	中２男子	中２女子	
50m走	9.40秒	9.60秒	8.20秒	9.00秒	9.67秒	9.83秒	8.20秒	9.05秒	※ボール投げ（小学：ソフトボール、中学：ハンドボール）
ボール投げ	29.10m	17.60m	22.60m	15.30m	22.04m	13.66m	19.98m	12.20m	





※Ｒ２年度はコロナウイルス感染症の影響により測定中止

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 目標に関しては、Ｓ６０年頃の水準に達しておらず、今後、コロナ等の影響による体力低下が懸念されるもの。
- 引き続き保護者の理解を含めた子どもの運動習慣を高めるための取組を行うとともに、運動・スポーツの「する」以外にも、「みる」（観戦等）といった多様な関わり方をもって、興味・関心を促す視点も重要。
- 学校部活動の地域移行を踏まえ、子どもが安全にスポーツをすることができる場、人（指導者）の確保を図る視点が重要。

柱１・スポーツで変わる北海道民

❸ スポーツに親しむ場の確保

第２期計画における【今後の方向性】

- 道立スポーツ施設では、指定管理者制度により民間事業者が有するノウハウを活用した効果的な管理運営に努めるほか、広域拠点スポーツ施設については、地域性や施設・地域の特徴を活かし、有効活用が図られるよう、連携を促進します。
- 幅広い年齢層や様々な競技レベルの人達が交流できる総合型地域スポーツクラブを目指し、施設や講座等の充実や普及など、中学校や高等学校等の部活動にも代わり得る質の高い活動の機会を確保できる体制を整える取組を進めます。
- サイクリングやウォーキングイベント、マラソン大会など、道民が参加しやすいスポーツ大会の充実を図ります。
- 年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、すべての人が安全かつ快適にスポーツを楽しむことができる施設の充実を図ります。

【目標】

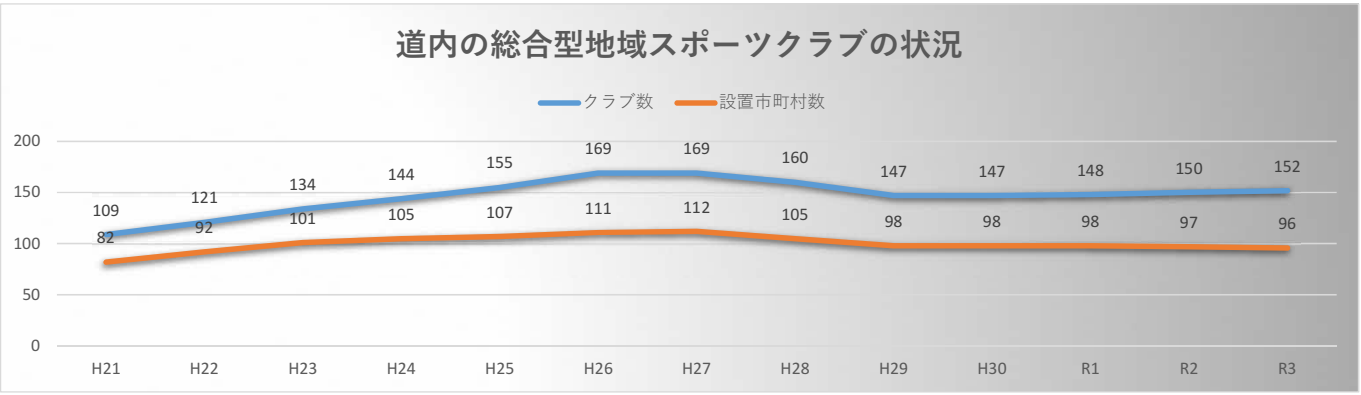
◎　本道の全ての市町村に総合型地域スポーツクラブを設置（H28（2016）：105→H34（2022）：179市町村）

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（地域支援事業）**【再掲】**	環境生活	総合型地域スポーツクラブ育成のための講習会・派遣事業	1,080 参加　105名	1,057 151名	980 55名	777	未計上
札幌ドーム整備費補助金	環境生活	札幌ドームの建設費の一部補助	138,000	138,000	365,000	365,000	未計上
広域拠点スポーツ施設整備費補助金	環境生活	釧路湿原の風アリーナ及び帯広屋内スピードスケート場の建設費の一部補助	78,637	78,226	77,692	77,341	未計上
北海道立総合体育センター管理運営費	環境生活	北海道立総合体育センターの指定管理負担金	313,898	305,603	301,930	397,463	未計上
北海道立北見体育センター管理運営費	環境生活	北海道立北見体育センターの指定管理負担金	59,803	59,956	59,937	65,166	未計上
北海道アウトドア活動振興環境整備事業費**【再掲】**	経済	アウトドア資格の認定登録等	391 新規登録　33件	389 28件	368 46件	368	未計上

【「目標」の結果について】

H28	目　標	R3結果
105	179	96



【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- コロナ禍における巣ごもりの影響による運動ニーズの高まりに加え、学校部活動の地域移行という情勢において、スポーツに親しむ場に対するニーズは今後とも高まっていくものと認識。
- スポーツに親しむ場として期待され、目標ともなっている総合型地域スポーツクラブの設置状況については、その育成率が全国平均と比べても低く、後退も懸念されるため、今後、質・量の両面で強化が重要。

柱１・スポーツで変わる北海道民

④ スポーツをみる・ささえる応援文化の構築

第２期計画における【今後の方向性】

- プロスポーツチームとの連携により、応援人口を拡大します。
- 企業などと連携した道民による支援のしくみをつくります。
- 東京２０２０オリパラ等の国際大会、北海道を本拠地とするプロスポーツ、国民体育大会などの各種競技大会の観戦やボランティアへの参加など、様々な形でスポーツに関わる応援文化を構築します。
- メディアなどの企業と連携し、障がい者スポーツをはじめスポーツ全体への参加に向けた理解の促進に努めます。

【目標】

◎ **プロスポーツ団体やオリンピアン・パラリンピアンで組織された団体等と連携した各種イベントや講習会等の推進**

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（チャレンジ教室、ペアレンツスクールの開催）**【再掲】**	環境生活	本道ゆかりのスポーツ選手を講師に招き、体験型教室を開催等	2,622 参加　752名	2,658 952名	3,319 233名	2,843	未計上
北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費	環境生活	北海道マラソン、ソウル国際マラソンの選手の受け入れ・派遣交流を実施	509	458	412	371	未計上
官民連携のイベント実施等	環境生活	プロチームやオールオリンピアンズによる道スポーツ教室への協力など	－	－	－	－	未計上

【「目標」の結果について】

【道が実施するスポーツ体験型教室への協力】

３０年度	千歳市	陸上	52人	アテネ・北京・ロンドン五輪選手	津別町	スケート	24人	平昌五輪選手
	新得町	陸上	33人	北京・ロンドン・リオ五輪選手	苫小牧市	スケート	50人	バンクーバー五輪選手
	帯広市	陸上	82人	北京五輪選手	網走市	陸上	78人	アテネ・北京・ロンドン五輪選手
	標津町	バレーボール	58人	ヴォレアス北海道	浦河町	スケート	45人	平昌五輪選手
	南幌町	陸上	50人	ロンドン・リオ五輪選手	室蘭市	カーリング	48人	トリノ・バンクーバー・平昌五輪選手
	札幌市	陸上	150人	リオ五輪選手	帯広市	野球	59人	元プロ野球選手
	秩父別町	スラックライン	23人	北海道スラックライン	計		752人	
元年度	標津町	陸上	29人	北京・ロンドン・リオ五輪選手	滝上町	野球	41人	日本ハムファイターズ
	知内町	バスケットボール	39人	レバンガ北海道	札幌市	バトミントン	163人	NTT東日本バトミントン部
	稚内市	野球	80人	日本ハムファイターズ	豊富町	バレーボール	56人	バレーボール元全日本代表選手
	名寄市	野球	52人	日本ハムファイターズ	帯広市	水泳	18人	北京五輪選手
	滝川市	野球	81人	日本ハムファイターズ	上士幌町	陸上	37人	アテネ・北京・ロンドン五輪選手
	津別町	水泳	22人	北京五輪選手	千歳市	陸上	53人	アテネ・北京・ロンドン五輪選手
	深川市	野球	68人	日本ハムファイターズ	札幌市	サッカー	59人	北海道コンサドーレ札幌
	江別市	陸上	65人	ロンドン・リオ五輪選手	計		952人	
	当別町	陸上	89人	アテネ・北京・ロンドン五輪選手				
２年度	小樽市	セーリング	18人	ヨット世界選手権大会日本代表選手	登別市	野球	140人	元プロ野球選手
	美瑛町	バスケットボール	42人	レバンガ北海道	計		233人	
	古平町	バドミントン	33人	北都銀行所属選手				

【その他道とプロスポーツチーム等が連携した取組】

取組内容	連携の相手方
コロナ禍における道民向けメッセージの配信	日本ハム、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ、元五輪選手
プロスポーツチームをテーマとしたパネル展の開催	日本ハム、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ、ヴォレアス
児童福祉施設への観戦チケットの配布	コンサドーレ
学生を対象とした観戦無料招待	レバンガ
知事による試合前のウポポイ等のPR	日本ハム、コンサドーレ、レバンガ
道職員のユニフォームの着用	日本ハム
チームユニフォームに道腕使用	サフィルバ
道民向けメッセージの配信	オリンピアン、日本ハム、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ
スポーツ（マラソン）イベントの連携	（株）アールビーズ

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

コロナ禍において、

- 社会の閉塞感がまん延する中、スポーツを通じ、健康で豊かな生活を取り戻すといった気運の醸成に向けた取組の役割の重要性は高まるもの。
- 今後、影響力のあるプロチーム等の個々の取組を集約し、発信するなど、より効果的な気運の醸成を図ることが重要。

柱2・スポーツで変える地域・経済・共生社会

❶ スポーツによる地域の活性化

第２期計画における【今後の方向性】

- 北海道スポーツコミッション（北海道オリパラの会）の機能を充実します。
- 地域におけるスポーツコミッションの設立を促進するとともに、情報共有や相互連携体制を構築します。
- スポーツ合宿や大会の誘致を促進するため、本道のスポーツ環境や魅力を発信します。
- 北海道の魅力を活かしたサイクルツーリズム等のスポーツツーリズムの振興を図ります。
- 海外選手やチームとの交流により、地域における国際化を推進します。
- 市町村のスポーツ都市宣言を促進します。

【目標】

◎ 地域におけるスポーツコミッション設置数の増加（H28（２０１６）：4→H３４（２０２２）：１７）

◎ スポーツ都市宣言市町村数の増加

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
地域スポーツコミッション推進事業費	環境生活	スポーツコミッションを設立し、スポーツ大会や合宿誘致を全道に展開	5,746	3,651	3,525		
ホストタウンアスリート交流プロジェクト補助金	環境生活	道内のホストタウンが実施する海外選手と住民等との交流に要する経費を一部補助				5,000	
北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費**【再掲】**	環境生活	北海道マラソン、ソウル国際マラソンの選手の受け入れ・派遣交流を実施	509	458	412	371	未計上
北海道ロシア連邦地域間交流発展加速事業費	総合政策	友好・経済交流を推進するため、健康・スポーツ交流関係者をロシア・モスクワに派遣	21,294	2,688	6,930	4,730	未計上
北海道スポーツツーリズム戦略的誘客促進事業	経済	食、自然に加え、スポーツの場として北海道をPRし、外国人観光客の誘致を推進	43,793	43,563	43,130		
アドベンチャートラベル受入体制整備事業費	経済	アドベンチャートラベルの推進を図るため、周遊拠点整備や人材育成セミナーを実施			89,276	107,196	

【「目標」の結果について】

１　スポーツコミッションの設置数

H28	目　標	R3結果
4	17 ※	19

※国の第2期スポーツ基本計画の目標（全国市町村の1割：１７０）を参酌し、道内市町村数の1割を目標設定

No.	活動エリア	組　織　名　称
1	北海道	北海道オリパラの会
2	北海道	一般社団法人　北海道ゴルフ観光協会
3	旭川市	旭川市スポーツ合宿誘致等推進協議会
4	釧路市	特定非営利法人　東北海道スポーツコミッション
5	札幌市	さっぽろグローバルスポーツコミッション
6	士別市	合宿の里士別推進協議会
7	稚内市	稚内市スポーツ合宿誘致推進協議会
8	芦別市	芦別市合宿の里推進協議会
9	千歳市	千歳市スポーツ合宿・大会誘致等推進協議会
10	苫小牧市	苫小牧市大会等誘致推進協議会
11	帯広市	帯広市スポーツ合宿・大会誘致推進実行委員会
12	名寄市	Nスポーツコミッション
13	上富良野町	十勝岳スポーツコミッション
14	釧路町	釧路町スポーツでまちを元気に推進委員会
15	新得町	新得町スポーツ合宿の里事業推進委員会
16	幕別町	幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会
17	斜里町	斜里町スポーツ合宿誘致実行委員会
18	壮瞥町	そうべつアウトドアネットワーク
19	美瑛町	特定非営利法人美瑛エコスポーツ実践会

（スポーツコミッションの要件）

要件１	常設の組織であり、年間を通じて活動を行っている。（時限の組織を除く）
要件２	スポーツツーリズムの推進、イベントの開催、大会や合宿・キャンプの誘致など、スポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化を主要な活動の一つとしている。
要件３	地方自治体、スポーツ団体、民間企業（観光産業、スポーツ産業）等が一体となり組織を形成、または協働して活動を行っている。
要件４	特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を行っている。

２ スポーツ宣言都市市町村数の増加

H28	目　標	R3結果
46	４７以上	47

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 目標については達成されたもの。
- スポーツ合宿については、実施する市町村がH28：83→R1：115と増加しており、今後も誘致等の取組が地域の活性化に資するものであること等メリット・有用性を未実施地域に還元するなどの波及効果をねらう視点が重要。

柱2・スポーツで変える地域・経済・共生社会

② スポーツの成長産業化

第２期計画における【今後の方向性】

- スポーツ観戦客の増加による応援グッズなどの消費拡大を目指します。
- スポーツ分野と、ものづくり、食、ICT、健康、ファッション、観光産業などとの連携によるスポーツ関連市場の拡大を促進します。
- スポーツ施設を核としたまちづくり（スマートベニュー構想）や、アリーナ等の魅力ある観戦環境づくりに向け、検討を進めます。
- 市町村、施設管理者、企業等による成長産業化に向けた情報共有や検討を進めます。

【目標】

◎　道内におけるスポーツ市場規模を拡大（参考　国：平成32（2020年）10兆円、平成37年（2025年）15兆円）

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
新球場建設構想への支援協力	環境生活	ファイターズ新球場建設構想への支援協力	－	－	－	－	－
北海道スポーツツーリズム戦略的誘客促進事業	経済	食、自然に加え、スポーツの場として北海道をPRし、外国人観光客の誘致を推進	43,793	43,563	43,130		
アドベンチャートラベル受入体制整備事業費	経済	アドベンチャートラベルの推進を図るため、週遊拠点整備や人材育成セミナーを実施			89,276	107,196	

【「目標」の結果について】

道内におけるスポーツ市場規模は、統計データがそろわないため、現在検証が困難

区分	2014（H26）	2015（H27）	2016（H28）	2017（H29）	2018（H30）
日本のスポーツGDP	7.2兆円	7.4兆円	7.6兆円	8.4兆円	9兆円

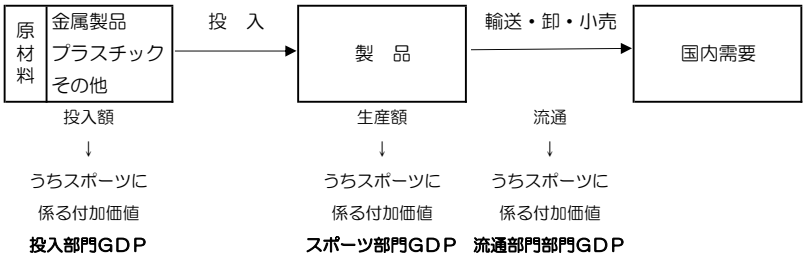
※国～統計数値がそろう直近データである2018年までは、順調に推移。しかし、その後は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けている可能性を言及

※参考　スポーツGDPの試算について

・スポーツ庁は、２０１２年、日本政策投資銀行の推計をもとに、スポーツ産業の経済規模を５．５兆円と発表した。
　しかし、スポーツに関わる財やサービスの最終消費額を積み上げた方式で、国際比較が困難なことから、
　日本政策投資銀行や日本経済研究所が新たな経済規模推計方式として、スポーツサテライトアカウント（ＳＳＡ）を開発。

・産業連関表を用い、GDP全体からスポーツ産業の寄与分を「スポーツGDP」として試算する方法を採用。

【概　要】



北海道の産業連関表は、北海道開発局が作成・公表しているが、２０１５年（Ｈ２７）が最新であり、経年比較できる統計データがない状況

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 　スポーツ市場規模については、経年比較できるデータがないことから、現状では検証が難しいもの。
- 　産業連関表等の基礎データの集積を待って、経年比較できる規模を算出するとともに、主な増減要因等についての分析に努める。
- 　一方、国のスポーツ基本計画では、スポーツの成長産業化の具体的施策として、スタジアム・アリーナづくりを掲げ、現在、全国で整備構想（北海道ではボールパーク構想（２０２３年開設予定））が進められているところ。
- 　道は、アクセス道の整備、食の魅力や周遊策等の広域観光に資するような施策にいて周辺市町村と検討・協力を行ってきたが、今後も地域活性化の観点からこれらの取組を継続することに加え、応援する層の増加に資する取組を強化することも重要。

柱2・スポーツで変える地域・経済・共生社会

3 スポーツでつくる優しい共生社会

第２期計画における【今後の方向性】

- 情報発信や体験会などの実施により、障がい者スポーツ、高齢者スポーツに関する理解を促進します。
- 関係団体や特別支援学校などとの連携により障がい者のスポーツ機会を創出します。
- 障がい者スポーツ等ができる施設整備やバリアフリー化をめざします。
- 障がい者スポーツ等に係る指導者、ボランティアの育成を促進します。
- ＣＳＲ活動など障がい者スポーツ等の民間支援の拡大をめざします。
- 東京２０２０パラリンピックを契機に、障がい者スポーツに関する「する」「みる」「ささえる」人の拡大を促進します。

【目標】

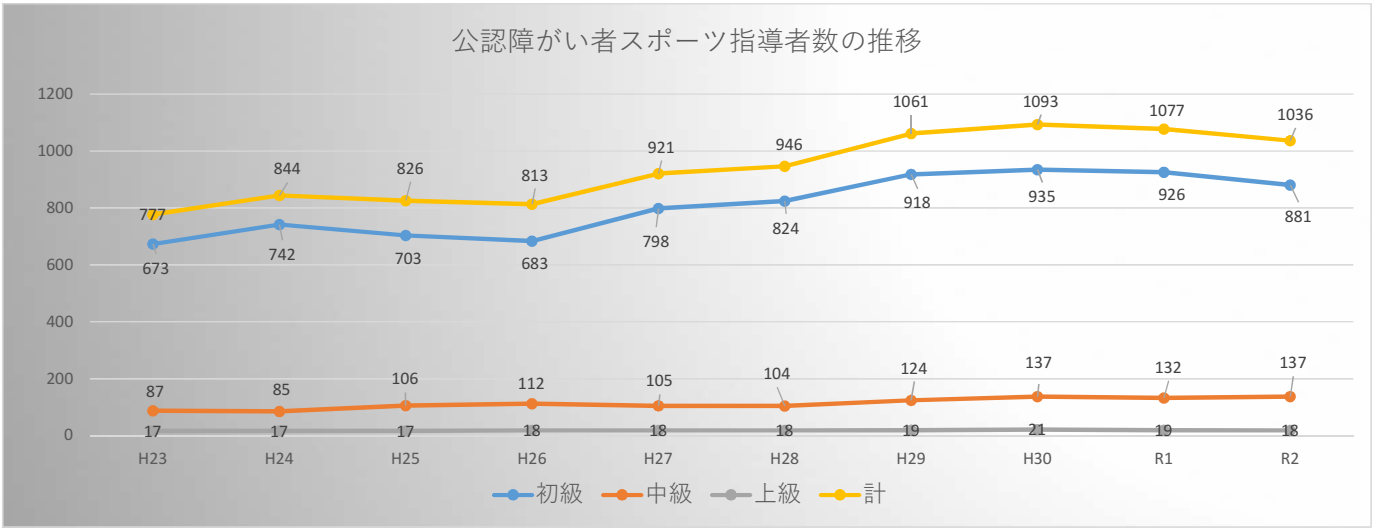
◎ 障がい者スポーツ指導者数（H28（2016）：946→H34（2022）：1，100）

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
障がい者スポーツ振興費	環境生活	北海道障がい者スポーツ大会、はまなす車いすマラソン等の大会開催経費補助、指導者養成等	44,017 大会参加 996名	31,927 512名	31,927 大会中止	31,927	未計上
全国障害者スポーツ大会派遣事業	環境生活	全国障害者スポーツ大会への北海道選手団の派遣経費に対する補助	12,090	19,718 本大会中止	31,038 本大会中止	22,193 本大会中止	未計上
北海道パラスポーツ連携促進事業費	環境生活	健常者及び障がい者によるスポーツ教室の実施、パラアスリートの発掘・育成等	9,000	7,210	13,139	9,747	未計上
明るい長寿社会づくり推進事業費**【再掲】**	保健福祉	全道高齢者スポーツ等大会の開催等	40,020 参加 134名	36,985 125名	30,679 202人	29,598	未計上

【「目標」の結果について】

H28	目　標	R2結果
946	1,100	1,036



【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 目標に関しては、Ｒ２年度末結果では達成できていないもの。
- 指導者、ボランティアについては、都市部に多く、地方に少ないという課題があるため、養成にあたっては北海道を面的に捉えた視点が重要。また、地方において、障がい者スポーツへの理解を促進し、支援の輪を広げていくことが必要。
- 障がい者スポーツの専用・優先施設も道内は数カ所と少ないことから、健常者スポーツ施設の配慮施設への転換や総合型地域スポーツクラブの設立促進など、場の拡大が重要。
- 加えて、障がい者スポーツ実践団体の個々の取組の活性化と団体間の連携が重要。

柱3・「どさんこ選手」の国際競技力の向上

❒ 競技力向上に向けたアスリートの強化、指導者の充実

第２期計画における【今後の方向性】

- 東京2020オリパラ等をはじめ国際大会で、本道出身アスリートが活躍できるよう、さらなる競技力の強化に努めます。
- スポーツ指導者や専門スタッフなどの育成に努めます。
- 障がい者アスリートの支援方策などの環境改善をめざします。
- 本道の競技人口のすそ野拡大を図るため、スポーツ少年団や競技団体の活動を促進します。
- 競技者の資質の向上や能力を最大限発揮できるよう、コーチなどの専門スタッフや教育機関等と連携を図りながら、スポーツ医・科学に基づいたサポートに努めます。

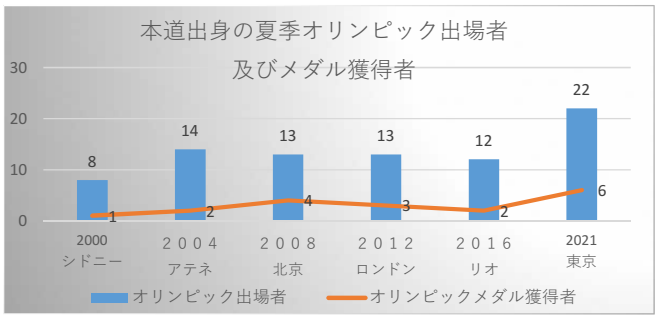
【目標】

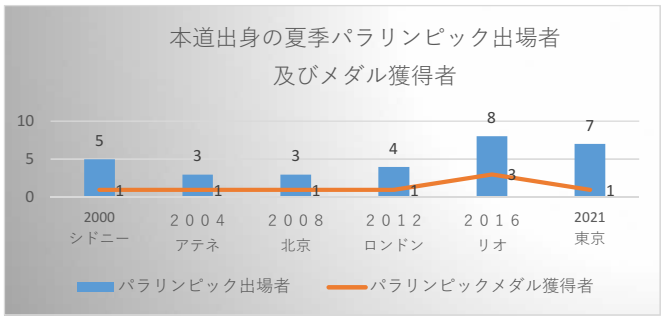
◎ **より多くの本道出身アスリートが、オリンピック、パラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス競技大会に出場し、前回大会以上に活躍する。**

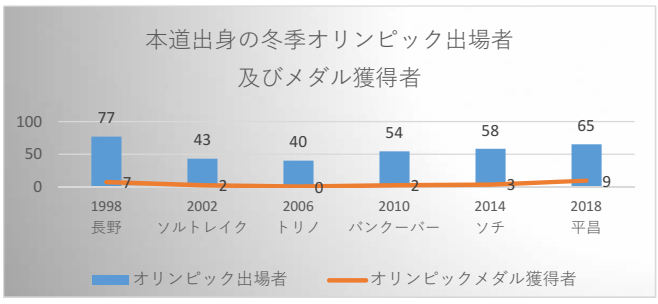
【これまでの取組内容について】

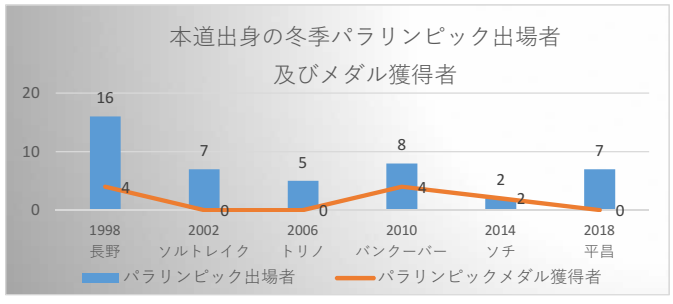
事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
障がい者スポーツ振興費【再掲】	環境生活	北海道障がい者スポーツ大会、はまなす車いすマラソン等の大会開催経費補助、指導者養成等	44,017 大会参加　996名	31,927 512名	31,927 大会中止	31,927	未計上
全国障害者スポーツ大会派遣事業【再掲】	環境生活	全国障害者スポーツ大会への北海道選手団の派遣経費に対する補助	12,090	19,718 本大会中止	31,038 本大会中止	22,193 本大会中止	未計上
北海道パラスポーツ連携促進事業費【再掲】	環境生活	健常者及び障がい者によるスポーツ教室の実施、パラアスリートの発掘・育成等	9,000	7,210	13,139	9,747	未計上
スポーツ競技力向上推進費補助金	環境生活	選手強化事業、指導者研修等に対する補助	65,031 合宿　3619人	65,031 3669人	65,031 2724人	65,031	未計上
ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費	環境生活	ジュニア選手の強化合宿経費に対する補助	12,175 合宿　561人	24,626 829人	24,626 1039人	24,626	未計上
スポーツ団体活動費補助金【再掲】	環境生活	国体運営、競技団体育成、指導員養成、少年団育成事業に対する補助	4,389	4,010	4,134	4,134	未計上
国民体育大会派遣費	環境生活	国民体育大会への北海道選手団派遣経費に対する補助	97,110 1044人	75,710 1040人	138,106 本大会中止	85,944 本大会中止	未計上
北海道未来人財応援事業費	総合政策	若者の海外留学やスポーツ指導者等を目指して海外で取り組む挑戦を支援	9,000 2名	9,000 1名	9,000 募集中止	9,000	未計上

【「目標」の結果について】









【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 東京２０２０オリパラにおいては、地元開催ということもあり、本道出身選手の目覚ましい活躍があった。
- 本道の国際競技水準の向上を図り、これを継続していくことが重要。
- 現行の競技力向上支援策については、補助金制度の枠組みにおいて行われ、その内容が硬直化する傾向があるため、次世代ターゲットスポーツといった戦略的強化等へのニーズに対応していくことが重要。

柱3・「どさんこ選手」の国際競技力の向上

❷ 世界に羽ばたく次世代アスリートの発掘・育成

第２期計画における【今後の方向性】

- 本道の競技人口のすそ野拡大を図るため、スポーツ少年団や競技団体の活動を促進します。
- 本道出身アスリートが国際大会で活躍できるよう、ジュニア期からのアスリートの発掘や育成を行うとともに、指導者の資質向上を図るなど、学校や競技団体等関係団体と連携し本道出身アスリートの競技力の向上を図ります。

【目標】

設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（有望選手発掘・育成事業）	環境生活	中高生を対象に有望選手を発掘・育成（セレクション、育成プログラム）	10,000 セレクション　20名	9,682 19名	8,690 12名	7,825 13名	未計上
全国障害者スポーツ大会派遣事業**【再掲】**	環境生活	全国障害者スポーツ大会への北海道選手団の派遣経費に対する補助	12,090	19,718 本大会中止	31,038 本大会中止	22,193 本大会中止	未計上
北海道パラスポーツ連携促進事業費**【再掲】**	環境生活	健常者及び障がい者によるスポーツ教室の実施、パラアスリートの発掘・育成等	9,000	7,210	13,139	9,747	未計上
ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費**【再掲】**	環境生活	ジュニア選手の強化合宿経費に対する補助	12,175 合宿　５６１人	24,626 ８２９人	24,626 １０３９人	24,626	未計上
スポーツ団体活動費補助金**【再掲】**	環境生活	国体運営、競技団体育成、指導員養成、少年団育成事業に対する補助	4,389	4,010	4,134	4,134	未計上
国民体育大会派遣費**【再掲】**	環境生活	国民体育大会への北海道選手団派遣経費に対する補助	97,110 １０４４人	75,710 １０４０人	138,106 本大会中止	85,944 本大会中止	未計上
学校スポーツ振興事業費**【再掲】**	教育	中体連、高体連等の全道大会開催費の補助及び教員引率旅費の措置	86,850	77,872	67,220	61,653	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 道の地域特性を活かしたウィンタースポーツをはじめとした有望選手の発掘・育成を継続していくこと、加えて、国のアスリート育成パスウェイ等の取組に繋げ・連携ていくことが重要。

❸ 国内外からのスポーツ合宿の誘致促進や海外アスリートとの交流機会の拡大

第２期計画における【今後の方向性】

- 道内市町村のスポーツ合宿に係る情報提供を行い、国内はもとより国外からのスポーツ合宿誘致を促進します。
- 道内各市町村において、国内外からのスポーツ合宿誘致やアスリートとの交流を通じ、「どさんこ選手」の競技力向上を促進します。
- スポーツ合宿による交流を通じ、ジュニア期からの国際感覚を醸成します。

【目標】

設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
ホストタウンアスリート交流プロジェクト補助金**【再掲】**	環境生活	道内のホストタウンが実施する海外選手と住民等との交流に要する経費を一部補助				5,000	
北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費**【再掲】**	環境生活	北海道マラソン、ソウル国際マラソンの選手の受け入れ・派遣交流を実施	509	458	412	371	未計上
北海道ロシア連邦地域間交流発展加速事業費**【再掲】**	総合政策	友好・経済交流を推進するため、健康・スポーツ交流関係者をロシア・モスクワに派遣	21,294	2,688	6,930	4,730	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- スポーツ合宿については、実施する市町村がH28：83→R1：115と増加しており、今後とも誘致等の取組が地域の活性化に資するものであること等メリット・有用性を未実施地域に還元するなどの波及効果をねらう視点が重要。**【再掲２－１】**

柱3・「どさんこ選手」の国際競技力の向上

❹ ウィンタースポーツの競技力向上

第２期計画における【今後の方向性】

- 本道の特色を活かしたウィンタースポーツの競技人口の拡大と競技力の向上を図り、冬季スポーツの振興を図ります。
- 札幌冬季オリパラをはじめ、国際大会で本道出身アスリートが活躍できるよう、さらなる競技力の強化に努めます。
- 特に次の世代を見据え、ジュニア期からのアスリートの発掘や育成を行うとともに、指導者の資質向上を図るなど、競技団体等と連携して本道の競技力の向上を図ります。【再掲】

【目標】

設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（有望選手発掘・育成事業）**【再掲】**	環境生活	中高生を対象に有望選手を発掘・育成（セレクション、育成プログラム）	10,000 セレクション　20名	9,682 19名	8,690 12名	7,825	未計上
ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費**【再掲】**	環境生活	ジュニア選手の強化合宿経費に対する補助	12,175 合宿　５６１人	24,626 ８２９人	24,626 １０３９人	24,626	未計上
国民体育大会派遣費**【再掲】**	環境生活	国民体育大会への北海道選手団派遣経費に対する補助	97,110 １０４４人	75,710 １０４０人	138,106 本大会中止	85,944 本大会中止	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 現行の競技力向上支援策については、補助金制度の枠組みにおいて行われ、その内容が硬直化する傾向があるため、次世代ターゲットスポーツといった戦略的強化等へのニーズに対応していくことが重要。**【再掲３－１】**
- 道の地域特性を生かした有望選手の発掘・育成を継続していくこと、加えて、国のアスリート育成パスウェイ等の取組に繋げ・連携ていくことが重要。**【再掲３－２】**

柱4・ スポーツを通じた人づくり

❶ スポーツによる人間力の形成

第２期計画における【今後の方向性】

- スポーツを通じ、礼儀や社会性の習得など、人間力の形成を図ります。
- 道内出身アスリートや道内スポーツチームの応援を通じた北海道に対する郷土愛の醸成を図ります。
- 幼少期から食育や栄養学の教育を推進し、健康長寿社会の実現をめざします。
- スポーツにおける幼少期からのアンチドーピング教育を推奨し、フェアなスポーツ環境づくりと健全な心身の育成をめざします。
- 競技団体等と連携し、スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力の根絶を促進します。

【目標】

◎　設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（チャレンジ教室、ペアレンツスクールの開催）**【再掲】**	環境生活	本道ゆかりのスポーツ選手を講師に招き、体験型教室を開催等	2,622 参加　752名	2,658 952名	3,319 233名	2,843	未計上
スポーツ競技力向上推進費補助金**【再掲】**	環境生活	選手強化事業、指導者研修等に対する補助	65,031	65,031	65,031	65,031	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- スポーツ庁は、スポーツインテグリティの確保に向け、スポーツ団体における自ら遵守すべき基準の作成に資するよう、適切な組織運営を行う上での原則。規範として、「スポーツ団体向けガバナンスコード」を策定し、遵守状況について自主的に自己説明を行い、その結果を定期的に公表することが望まれることとした。
- 中央競技団体（NF）と比べ、地方のスポーツ団体においては、審査の仕組がないことから、ガバナンス強化・コンプライアンス徹底に関する意識付けが弱いことが国で言及されている。
- 今後、国等と連携し普及に取り組むとともに、課題等について関係団体と情報共有を行っていくことが重要。

❷ スポーツ人材の働く環境づくり

第２期計画における【今後の方向性】

- アスリートが安心して競技に打ち込むことができるよう、スポーツ体験教室やジュニアアスリートの発掘・育成など様々なアスリートの活躍の機会を広げるなど、セカンドキャリア支援方策を検討します。
- 企業や団体などによるアスリート雇用の促進を働きかけます。
- スポーツ活動の人材育成に係るスポーツ指導者等の養成や、指導者数の拡大と働く場の創出を促進します。

【目標】

◎　設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（チャレンジ教室、ペアレンツスクールの開催）**【再掲】**	環境生活	本道ゆかりのスポーツ選手を講師に招き、体験型教室を開催等	2,622 参加　752名	2,658 952名	3,319 233名	2,843	未計上
障がい者スポーツ振興費**【再掲】**	環境生活	北海道障がい者スポーツ大会、はまなす車いすマラソン等の大会開催経費補助等	44,017 大会参加　996名	31,927 469名	31,927 大会中止	31,927	未計上
スポーツ競技力向上推進費補助金**【再掲】**	環境生活	選手強化事業、指導者研修等に対する補助	65,031	65,031	65,031	65,031	未計上
スポーツ団体活動費補助金**【再掲】**	環境生活	国体運営、競技団体育成、指導員養成、少年団育成事業に対する補助	4,389	4,010	4,134	4,134	未計上
北海道未来人財応援事業費**【再掲】**	総合政策	若者の海外留学やスポーツ指導者等を目指して海外で取り組む挑戦を支援	9,000 2名	9,000 1名	9,000 募集中止	9,000	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- セカンドキャリアに関し、特に、次代を担う子ども達において、将来展望が見えない認識が広まることにより、競技離れや競技力の低下、ひいてはスポーツ人口の裾野の減少を引き起こすおそれがある。
- R2年度、アスリート雇用実績のある市町村は道内に１９市町村存在し、また雇用する民間企業もあるものの、現役引退アスリートの雇用は依然厳しいもの。
- セカンド・デュアルのキャリア形成促進のため、これまで培った技術や経験を次の世代の選手の育成等に活用できるよう、多様な主体がアスリートの活躍機会の場を多く創出するなど、アスリートの活用に対する需要を高めていくといった視点が重要。

柱4・ スポーツを通じた人づくり

❸ スポーツボランティアの普及促進

第２期計画における【今後の方向性】
- ラグビーワールドカップ２０１９や東京２０２０オリパラなど国際大会を通じたボランティアの育成と参加拡大を図ります。
- 北海道マラソンやプロチーム観戦などにおけるボランティア機会の創出を促進します。

【目標】
◎　設定なし

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
東京2020オリンピックマラソン・競歩競技における観衆誘導員の募集協力	環境生活	東京2020オリンピックマラソン・競歩競技の観衆誘導員の募集について、組織委員会に協力	－	－	－	－	－
北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費**【再掲】**	環境生活	北海道マラソン、ソウル国際マラソンの選手の受け入れ・派遣交流を実施	509	458	412	371	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 東京２０２０オリンピックマラソン・競歩競技において、約2,600人がボランティアとして参加。
- 大規模な大会の後、地域のスポーツイベント等で継続的に活動する人が増えることが期待されるもの。
- 今後、スポーツをする・みる・ささえるの気運の醸成の取組を進め、スポーツへの参画人口の拡大を図るとともに、継続的な活動の機会を提供するための情報提供等が重要。

❹ 大学との連携によるスポーツ人材の養成

第２期計画における【今後の方向性】
- 大学のスポーツ資源（学生・指導者・研究者・施設など）を活用したスポーツ人材づくりを促進します。
- 大学と連携し、講演会やスポーツに係る講座を開催し、学生や社会人への理解を深めます。
- 大学などと連携し、スポーツ指導者などの育成や、道内で実施するイベントやスポーツ教室への指導者の派遣を行います。
- スポーツを研究する大学と連携し、北海道のスポーツの現状や、練習に必要な気象情報や運動データの集積などの調査・分析を行い、将来のスポーツのあり方を考えます。
- インターンシップの受け入れ等により、大学のスポーツ人材を活用します。

【目標】
◎　スポーツ科学や講座等を設置している大学との連携強化
◎　包括連携協定大学数を増加

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（有望選手発掘・育成事業）**【再掲】**	環境生活	中高生を対象に有望選手を発掘・育成（セレクション、育成プログラム）	10,000 セレクション　20名	9,682 19名	8,690 12名	7,825 13名	未計上
北海道パラスポーツ連携促進事業費**【再掲】**	環境生活	健常者及び障がい者によるスポーツ教室の実施、パラアスリートの発掘・育成等	9,000	7,210	13,139	9,747	未計上
北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費**【再掲】**	環境生活	北海道マラソン、ソウル国際マラソンの選手の受け入れ・派遣交流を実施	509	458	412	371	未計上

【「目標」の結果について】

大学名	連携の内容	包括連携協定
札幌国際大学	有望選手の発掘育成事業における測定会の開催協力	－
北翔大学	パラアスリートの発掘育成事業における測定会の開催協力	H29.5締結
北海道大学	北海道マラソン大会開催協力	R3.4締結
北海道教育大学	障がい者スポーツ施策全般に関する協力	－

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 包括連携協定大学は２大学。
- 現在、道の事業において大学からの協力を得ており、今後、市町村や関係団体等との連携に発展するよう必要な情報提供を行うとともに、大学の有する研究等の知的資源の活用が重要。

柱5・東京2020オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出

❶ 東京2020オリパラ開催による好機の活用

第２期計画における【今後の方向性】

- 北海道におけるオリンピック・パラリンピックムーブメントの醸成を促進する。
- ホストタウンや事前合宿誘致などの取組を促進し、北海道のスポーツ環境の発信と国際交流の推進を図ります。
- 開閉開式や東京２０２０参画プログラム・beyond2020プログラム、応援プログラムへの積極的参加により、北海道文化を世界に発信します。
- 聖火リレーやボランティアを通じ、道民の参加意識の醸成を図ります。
- 食材、木材などの道産品などの大会などでの活用に向けた普及ＰＲ等に取り組みます。
- 東京２０２０オリパラを視野に入れた戦略的な外国人観光客の呼び込みを促進します。
- 東京２０２０オリパラで活躍できる選手強化や指導者の育成を図ります。【再掲】

【目標】

◎ **より多くの本道出身アスリートが、夏季・冬季オリンピック・パラリンピック・デフリンピック・スペシャルオリンピックスに出場し、活躍する。【再掲】**

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業	環境生活	オリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバルの実施	10,000	68,500	32,737	370,493	
東京2020オリンピック連携推進事業費**【再掲】**	環境生活	道内市町村により地域PRや子ども達の招へい（マラソン応援等）			2,162	104,590	
ホストタウン等における新型コロナウイルス感染症対策基金事業費	環境生活	ホストタウンや事前キャンプ地における新型コロナウイルス対策				407,285	
ホストタウンアスリート交流プロジェクト補助金**【再掲】**	環境生活	道内のホストタウンが実施する海外選手と住民等との交流に要する経費を一部補助				5,000	
障がい者スポーツ振興費**【再掲】**	環境生活	北海道障がい者スポーツ大会、はまなす車いすマラソン等の大会開催経費補助等	44,017 大会参加 996名	31,927 469名	31,927 大会中止	31,927	未計上
全国障害者スポーツ大会派遣事業**【再掲】**	環境生活	全国障害者スポーツ大会への北海道選手団の派遣経費に対する補助	12,090	19,718	31,038	22,193	未計上
北海道パラスポーツ連携促進事業費**【再掲】**	環境生活	健常者及び障がい者によるスポーツ教室の実施、パラアスリートの発掘・育成等	9,000	7,210	13,139	9,747	未計上
スポーツ競技力向上推進費補助金**【再掲】**	環境生活	選手強化事業、指導者研修等に対する補助	65,031 合宿 3619人	65,031 3669人	65,031 2724人	65,031	未計上
ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費**【再掲】**	環境生活	ジュニア選手の強化合宿経費に対する補助	12,175 合宿 561人	24,626 829人	24,626 1039人	24,626	未計上
スポーツ団体活動費補助金**【再掲】**	環境生活	国体運営、競技団体育成、指導員養成、少年団育成事業に対する補助	4,389	4,010	4,134	4,134	未計上
国民体育大会派遣費**【再掲】**	環境生活	国民体育大会への北海道選手団派遣経費に対する補助	97,110 1044人	75,710 1040人	138,106 本大会中止	85,944 本大会中止	未計上
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業費**【再掲】**	教育	オリパラ推進拠点学校の設置などオリパラ教育を推進	5,696 8校	6,810 15校	5,897 7校	5,354	未計上

【「目標」の結果について】

柱3・「どさんこ選手」の国際競技力の向上 ❶ 競技力向上に向けたアスリートの強化、指導者の充実と同じ

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 東京２０２０オリパラにおいては、地元開催ということもあり、本道出身選手の目覚ましい活躍があった。
- 本道の国際競技水準の向上を図り、これを継続していくことが重要。
- 現行の競技力向上支援策については、補助金制度の枠組みにおいて行われ、その内容が硬直化する傾向があるため、次世代ターゲットスポーツといった戦略的強化等へのニーズに対しても対応していくことが重要。**【再掲３－１】**

❷ 札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成

第２期計画における【今後の方向性】

- 大会への官民一体となった取組を促進します。
- 大会に向けた道民の機運醸成を図ります。
- 大会を視野に入れたスタジアム・アリーナ改革の検討を進めます。
- 観光客誘致や合宿誘致などにより、優れた景観やジビエなどの食、独自の文化など、北海道の魅力発信に努めます。
- ウィンタースポーツ競技人口の拡大と競技力向上を促進します。（再掲）

【これまでの取組内容について】

事　業　名	所管部	概　要	予算規模（千円）及び実績内容				
			H30	R１	R2	R3	R4
スポーツ王国北海道事業費（有望選手発掘・育成事業）**【再掲】**	環境生活	中高生を対象に有望選手を発掘・育成（セレクション、育成プログラム）	10,000 セレクション 20名	9,682 19名	8,690 12名	7,825	未計上
ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費**【再掲】**	環境生活	ジュニア選手の強化合宿経費に対する補助	12,175 合宿 561人	24,626 829人	24,626 1039人	24,626	未計上
国民体育大会派遣費**【再掲】**	環境生活	国民体育大会への北海道選手団派遣経費に対する補助	97,110 1044人	75,710 1040人	138,106 本大会中止	85,944 本大会中止	未計上

【現状・課題と今後の方向性等について】（案）

- 2030年冬季オリパラの招致に向けては、招致の主体となる札幌市民の理解と支持を得ることが重要であり、その上で道民の理解を広げていくことが必要。
- スポーツ教室などを通じて、スポーツをする・みる・ささえる取組への理解促進を図るとともに、道内関係自治体の調整など、札幌市と情報共有を図りながら協力していく。